

●都市エリア型(発展)(平成22年～24年度)

弘前エリア

プロテオグリカンをコアとした津軽ヘルス&ビューティー産業クラスターの創生

URL: <http://www.proteoglycan-japan.net/project/>

参画機関(太字は核となる研究機関)

産…角弘、サンスター、
一丸ファルコス ほか
学…弘前大学
官…**青森県産業技術センター**、
青森県、弘前市 ほか

本事業のねらい

弘前大学が蓄積した糖鎖工学の豊富な知的・人的財産並びにプロテオグリカン(以下「PG」とする)の大量精製技術を活用し、都市エリア産学官連携促進事業で得られた独創的な研究成果をもとに、機能的食品や化粧品、医薬品等の開発を加速させ、地域の産学官連携強化のもと、具体的な商品開発と新規ビジネス創出促進により、本県の地域特性を生かした「健康(ヘルス)・美容(ビューティー)」関連産業クラスターの形成に取り組むものです。

事業成果

PGを活用した化粧品及び高機能性食品、
医薬品等の開発



① 開発した商品群

【PGの商品化支援】

青森県産業技術センター内に設置した産学官連携による研究実用化推進チームが中心となる商品開発研究会を積極的に開催し、これまでの研究成果の技術移転を促進することで短期間にPG商品開発が自発的に行われる仕組みを作り、商品化をフォローすることで、地元の参画企業が青森県産素材とPGをマッチングさせた美容製品及び健康食品の開発を行い、県内外企業40社においてPGを活用した商品を販売できました。

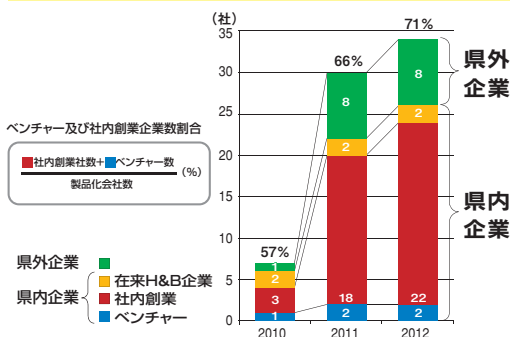
① 開発した商品群

青森県独自素材でこれまでに有力な化粧品素材と考えられているりんごやふのり、ガマズミ等を化粧品素材化、健康食品としての素材化を行い、更には事業で開発したPG定量法を用い、主要な食品中でのPGの濃度変化を分析して、PGを利用した化粧品(シャンプーや乳液等)や高機能性食品等を試作し、地方発の健康食品及び化粧品として商品化しました。

② 商品化数及び商品化企業数の推移

新商品数は平成22年度16件と少なかったものの、平成23年度は63件、平成24年度62件と増加し、それぞれ事業目標値を大きく上回りました(平成25～26年度累計145件)。その主な要因は、ベンチャー数や既存の健康食品美容製品販売企業の商品数の増加ではなく、県外企業の商品化数の増加と、伝統的産業を支えてきた県内企業の社内創業数の増加と考えられました。

商品化企業数の推移



商品化を行っているのは、ベンチャーと社内創業

② 商品化数及び商品化企業数の推移

製品化実績等

- ◆試作品271件、新商品開発145件(実施期間累計)
試作品199件、新商品開発145件(平成25～26年度累計)
- ◆製品製造出荷額(実施期間累計額): 約12億円
製品製造出荷額(平成25～26年度累計): 約55億円
PG配合飲料酢「PG-inリンゴ酢」、PG配合化粧水「リペアミスト」、PG配合サプリメント「三陸鮭王」

今後の市場規模(見込み)等

- ◆PG素材市場規模予測
2億円(平成27年度)、26億円(平成32年度、競合市場の約3割)
- ◆PG関連商品の市場規模予測
平成27年度 全体20億円、うち弘前エリア6億円
平成32年度 全体260億円、うち弘前エリア80億円